

長野県の特徴

1 自然や文化などの地域色の豊かさ

長野県は、全国第4位の広さを誇る県土を有し、広大な森林が澄んだ水や空気を育んでいる。

南北に長く四方を急峻な山々に囲まれ標高差もあることから、北部は豪雪地帯である一方、南部は比較的温暖であるなど、気候は多様性に富んでいる。

県内では野菜、果樹、花き、きのこなどの園芸作物や、米、畜産など、バラエティーに富んだ農産物が生産されている。また、大消費地である三大都市圏に近い有利性などから、レタスやりんご、えのきたけなど全国シェアが上位の品目も多い。

豊かな自然に加えて、温泉、スキー場や、地域で受け継がれた有形無形の多様な文化、自然と人との関わりによって育まれた農村の美しい原風景などを求め、四季を通じて多くの観光客が訪れるとともに、グリーン・ツーリズムなどを通じた交流が活発化している。

本県には、水力やバイオマスなど豊富な自然エネルギーが潜在している。特に、太陽光・太陽熱の利用に適した日照時間が長い地域が多くなっている。

地域では祭りや公民館などの活動が盛んであり、人と人とのつながりや支え合いを大切にする精神など、人の温もりや絆が息づいている。

2 健康・長寿

長野県は、全国より早く高齢化が進む一方で、老人医療費が低く、平均寿命は男性が全国第1位、女性が全国第5位と、全国トップレベルの健康長寿県となっている。これは、豊かな自然の中でゆとりを持って生活していること、長年にわたる地域に根ざした保健活動や農村医療と呼ばれる在宅医療・ケアによって醸成された県民の健康に対する高い意識によるものと言われている。

高齢者の就業率が全国一高く、高齢者が生きがいを持ちいきいきと働いているなど、県民の働く意欲の高さも健康長寿の大きな要因となっている。

3 交通ネットワーク

長野県は、日本列島のほぼ中央に位置し、県歌「信濃の国」にも歌われるように「十州」(8県)と接しており、古くより東山道、中山道などが通る交通の要衝となってきた。

首都圏・中京圏から200km圏内に位置し、アクセスしやすい地理的条件となっている。

中央自動車道、長野自動車道、上信越自動車道の全線開通、また北陸新幹線長野・東京間の開業などにより、本県の高速度交通ネットワークは飛躍的に整備されてきた。その結果、東日本と西日本、太平洋側と日本海側をつなぐ結節点として、重要な役割を担っている。

今後北陸新幹線の長野・金沢間の開業やリニア中央新幹線の東京・名古屋間の開業のほか、中部横断自動車道や三遠南信自動車道、中部縦貫自動車道などの整備が進められており、国内はもとより、外国人観光客の集客など海外との交易に大きく寄与することが期待されている。

4 企業家精神を育む土壌

県内の製造業は、県内総生産の27%を占め、長野県を支える基幹産業となっている。また、製造品出荷額のうち加工組立型産業が65%を占めている。

本県のものづくりは、明治期の製糸王国の時代から、時代の変遷による産業構造の変化に柔軟に適応し、戦前から戦後期のカメラ、時計等の精密機械工業、そして現在の電子、情報、自動車部品等の分野へと発展してきた。このように本県には、果敢に挑戦する企業家精神が地域の中で脈々と受け継がれている。

ブランド力のある大手企業が少ない反面、独自の技術で部品加工を担う中小企業が多く、超精密・超微細な加工技術などを得意とする産業集積のもとで、ナノテクノロジーなどの優位性のある技術を活用した新たな産業集積の芽が育ちつつある。

平成24年には青年技能者の技能レベルを競う「技能五輪全国大会」の開催が予定されており、これを契機として、ものづくり産業を担う人材育成や熟練技能の維持・継承が期待されている。

たゆみない農業者の努力や技術開発・品種改良により、気候や立地条件に適した付加価値の高い作物へ生産を転換させてきた本県農業は、今後とも消費者ニーズに的確に対応した、ブランド化につながる新品种の育成・栽培などが期待されている。